

KTK ひゅうまん 京都

No 534 2021年5月号

編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P 1 左大文字 つどめ
- P 2 常任委員会から 池添 素
- P 3 随感随筆『天道虫、とんだ!』 大西里江
- P 4 血の染みついたバトン 中村 暁
- P 5 障害者と共に歩んだ京障連の50年 松本 美津男
- P 6 補装具事件でみてきたもの 吉田 雄大
- P 7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P 8 2+2=詩 赤富士文兼
- P 9 障害のある人の権利を守る北障連から 濱中 博
- P 10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P 11 知っ得情報 松本 美津男
- P 12 力を合わせて生きる 金 順喜

左大文字

ヤングケアラー

「ヤングケアラー」に社会の関心が集まっている。私たちが早くから「きょうだい」の課題として取り上げてきた課題だが、ようやくこの分野が政治的イシューとなるうとしている▲政府のプロジェクトチームの会議(4/12)で厚労省の調査結果が公表されるや否や、メディアが一斉に報道した(4/13)。この調査は昨年12月から今年にかけて、統計的に抽出された全国の高校2年生(約6・8万人)、中学2年生(約10万人)に対してインターネット上で行われた▲「話をしている家族がいる」という生徒の割合は、中学生が5・7%でおおよそ17人に1人、全日制の高校の生徒が4・1%でおおよそ24人に1人。「ほぼ毎日」と答えた生徒は、「45・1%」(中学生)・「47・6%」(高校生)。世話にかけている時間は、平日1日の平均で、中学生が4時間、高校生は3・8時間。7時間以上を世話に費やしている生徒が、1割を超えていた▲内容は、食事の準備や洗濯などの家事が多く、ほかにも、きょうだいを保育園に送迎したり、祖父祖母の介護や見守りをしたりと多岐にわたる▲いろんな人も声を上げ始めた。山崎育三郎さんが「僕もヤングケアラーだった」と高校生の祖父祖母の介護の様子を語っていた(朝日新聞)。あのノーベル賞作家の川端康成さんも祖父を世話していた中学生だったということも初めて知っておどろいた▲どんな支援が必要なのか。大人たちの知恵の見せ所だ。

つどめ



「友だち」
渡辺あひる

常任委員会から

〈個人的な体験〉

土曜の夕方、相方が微熱で、訪問看護のナースがかかりつけ診療所に指示を求めると、肺炎の可能性もあるので、直接病院に行ってくださいとの指示。タクシーを呼んで、乗り込みいざ出発というとき、目的地の病院から、現在ベッドがいっぱいなので、入院が必要でも無理なので、他の病院をあたってくださいとの連絡が。「え！自分で見てくれる病院探すの？」それほど考えても無理、看護師さんは再度かかりつけ診療所にムリな実情を話す。ドクターが往診に来てくれることになったので、いったん乗り込んだ車から降りて、自宅でドクターが来るのを待つことになった。

2か月前にも同じような状況

になり、急遽病院に救急でいき、すぐに入院ができた。わずか2か月で、医療現場のひっ迫した状況を肌で感じることに。まさか自分たちがその現実遭遇するとは思っていなかったけれど、毎日テレビで報道されるコロナの感染拡大は、ひたひたとすぐそばまで来ていることを実感した。

〈面会ができない〉

京障連代表委員の一人である大西さんの娘さんは施設で生活している。面会や週末帰宅は母の生きがい、いつもその日を心待ちにしていたが、その楽しみがコロナの感染拡大で一変。自宅に帰ることはもちろん、面会すらもできなくなってしまう。最初は廊下を挟んでリモー

ト面会もできたが、今は全く面会ができなくなってしまった。事情がのみ込めていない娘さんの気持ちを思うと、いても立っても居られない心境は痛いほどわかる。

高齢者の介護施設でも家族の面会ができないとの実態は身近なところからも聞く。当事者の気持ちも家族の気持ちもやるせないが増していく。感染しない、感染させないが大切なことは重々わかっている、会えない心細さは余計に体調も不安定になりそうだ。

コロナ禍で、様々な困難を乗り切って、アフターコロナの社会を生きることをめざして、今を懸命に生きることしかないと思う気持ちは誰もが同じだと思いが、今はそれ以上に、感染拡大をストップさせることに心を砕かなければ。

〈やっぱり中止でしょ！〉

この状況下、京障連の2021年度の総会を書面での決議とします。昨春秋に臨時総会を開催している、それもやむなしと考えます。対面しての会議や研修会などはいつになったらできるのだろうか。誰もわからない状況ですが、早くその日が来てほしいと心から願います。収束のために必要な感染を予防する対策はみんなむちゃくちゃ努力していると思います。自分の努力が必ず感染防止に役立つと考えて努力を惜しまない気持ちではないでしょうか。なのに、東京オリンピック・パラリンピックは開催すること。これこそ不要不急ではないのです。今私たちは何のために自粛をしているのですか？オリパラのためですか？今こそ勇気をもって、東京オリンピック・パラリンピックの中止を叫ばなくては。ワクチンの到着も「ハヤク！」と叫びたい。

池添素（京障連事務局長）



随感随筆『天道虫、とんだ!』大西 里江



五月立夏。

立夏から五日毎に、初候、次候、末候と三つの季節に分けて、季節の変化を感じる言葉がある。

初候は、蛙始鳴（カエルが鳴き始める）

次候は、蚯蚓出（ミミズが這い出てくる）

末候は、竹笋生（タケノコが生えてくる）

この季語よりも、全て今は早くなっているね。
温暖化のせいなのかな？

今日は、菖蒲湯。

鯉のぼりを見ながら、柏餅を頬張って皆と遊んだ日々を懐かしむ。
今年も…

このゴールデンウィークは緊急事態期間になった。
美しい藤棚やツツジの一般公開は今年も無くなった。

この時期の季語は、卯浪又は卯波。

卯の花が咲く頃、白波になるからこの季語が出来た。
どんなに荒々しい波も、いつかは穏やかな波になる。

波が落ち着くまでの我慢。

感染の波が穏やかになる日までの我慢。

じっと我慢するのは、ツライですよ。

駄々っ子のように嫌いやーと出来たら、どんなにいいか！

何も気にせず、はしゃいでいた子供の日。

子供らしくより、感染しないことを求める今の生活。

無邪気に、はしゃぐ笑い声より、一人大人しくするように。

強いられる生活の中でも、楽しめることを考えるが…。

青空の下で思いきり駆けたいよね。

イライラが募るよね。

ちょっとしたこと、腹立ってしまう状態に効く薬は、何があるかなあ？

深呼吸しよう！

新緑の香りを思いきり嗅ぐ。

こうして草木が輝く季節。

青空に、白い雲見て、今日も生きていることに感謝して。

「ジュピッピ」

この鳴き声は、ルリビタキかな？

幸せ運んでくれる、青い鳥。

色んな制約があって、気がかりなことも多く、憂慮する毎日が、
いつか、開雲見日になる。

どんな状況でも希望は持っていたい!!

来年の子供の日は、安心して外遊び出来ますように…。

思いきりはしゃいで、笑顔いっぱい見られますように…。



血の染みついたバトン

中村 暁（医療ジャーナリスト）

⑤ ワクチン接種体制

3 度目の緊急事態宣言の延長。記者会見で菅首相はあらためて「長引く感染対策の決め手となるのが、ワクチン」と訴えた。これを書いている今、京都市でも高齢者向けの優先接種が始まるという時点。住民向け接種は市町村が実施主体であり、府内各市町村は各々保健所や地区医師会と連携し、いちばんいいやり方で接種を進められるよう体制整備を模索してきた。

休日に接種するとすると医師自身はともかく看護師らスタッフをどうするのか。さらに話をややこしくしているのは、ファイザー社のワクチンが1バイアルにつき5人ないしは6人分である点である。今後ワクチンの供給に目途が立ち、予約を受け付けても1人分余ったり、不足したりたりすることが避けられない。そうした場合、市は医療機関で調整（あげたりもらったり）してくれというが、それはかなり困難な仕事であり、ワクチンの有効期限も長くないので余計厄介である。

京都市の状況は深刻そうである。市は早い段階で「集団」でなく「個別」を主軸に接種を進めると決めたが捗々しくない。「個別」主軸とは病院や診療所の外来での接種が中心ということだが、京都新聞が報じている

ように、市内約700医療機関が接種可能と表明する一方、うち医療機関名公表に応じたのは約2割の120カ所のみ。公表した医療機関には予約開始前から電話が殺到し、5月1日の報道では公表医療機関は82カ所にまで減ってしまったという。一方、公表していない医療機関には、かかりつけの患者さんへの接種には責任を持ちたいがそれ以上は難しいとの判断がある。これはやむを得ない話で、診療所の多くは午前と午後の診察の間は在宅医療やコロナ禍にあつて発熱外来に充てたりしている。通常診療中のワクチン接種は「場所」が問題になる。接種後15分の状態観察が必要だが、待合室を密にするわけにいかないのである。かといって、

会場に来てもらい、接種する体制を強める方が良い。

診察の間は在宅医療やコロナ禍にあつて発熱外来に充てたりしている。通常診療中のワクチン接種は「場所」が問題になる。接種後15分の状態観察が必要だが、待合室を密にするわけにいかないのである。かといって、

み状態を見てみると、何もかもを医療機関に丸投げする「個別」主軸などという方針が空想的なものではないかと思える。少なくとも当面は、行政自身が直接、住民の予約を受け付け、ワクチンの配分も管理し、地域の医師や看護師にお願いして集団接種

だが気がかりなのは京都市が行政区の保健所を全廃していることである。あれ以来、市と市内の地区医師会との関係は希薄となった。市が「個別」主軸と決めたのは、実のところ大規模な集団接種体制を構築する自信と力量がなかったからではないか。そう考えると暗澹たる思いになる。



障害者と共に歩んだ京障連の50年(5)

京障連代表委員 松本 美津男

国際障害者年で

府市民にアピール

1981年の国際障害者年の前年12月、25氏の呼びかけにより幅広い団体個人が参加して国際障害者年京都市実行委員会が結成されました。これには81年4月末で65団体と66人の個人が加入しています。また各地域で地域連絡会も結成され、特に京都における活動の特徴としては京教組、自治労京都府本部、京都府職労、京都市職労、日社労組などによる関係労働組合連絡会が結成されています。

で開催されていますが、「障害者と恋愛結婚」というテーマでは半年の間に2回開催されています。さらに国際障害者年記念ふれあいコンサートを2回開催しています。

11月14日 高石友也とザナターシャセブン

11月16日 笠木透と鬼剣舞

また、1986年には障全協の提起にこたえて、京障連・社

の提起にこたえて、京障連・社

実行委員会は10年を見通した行動計画の討議や100回シンポを始めました。

11月23日兵庫からリレー行

シンポジウムはスタート当初、ほぼ毎月さまざまなテーマ

の集会后、障害の違いをこえ、

障害者、家族、労働者、市民がともに力をあわせて京都で初のパレードを行いました。

四條河原町では6000枚のビラの配布、各団体代表による車上からの街頭演説も行いました。

そして 京都府・京都市をはじめ府内全自治体と議会に、「中間年に関する意見書」を国へ提出することを求めて要請と、請願をしました。その結果、城陽市議会が

請願を採択し、首相はじめ関係機関へ意見書が提出されました。

全国に反響呼んだ

マラソンスピーチ366

1992年1月1日から1年間、毎朝、京都駅前で「国連・障害者の10年最終年マラソンスピーチ366」を障害児者関係者中心に行いました。大学教授や建築家、随筆家等々幅広い人たちが駅前立ち、東京からも障全協の吉本会長などが駅前ですピーチをしています。

この取り組みはマスコミにも注目され、「マラソンスピーチ」という運動スタイルは様々な分野に引き継がれていきました。



補装具費事件でみえてきたもの

弁護士・吉田雄大

既報のとおり、ジョナさんの装具費の支払は、わずか11、補装具費に関する裁判は、20528円に過ぎないとして、2021年3月16日、リフト機能部分の金額を振り込むので口座を指分についての支給を命じる（一定せよという文書を福祉事務所部）勝訴判決が出て、そのまま經由でジョナさんのところに送確定しました。私もあちこちから、「報道見たよ、勝ったね」と

の声をいただきました。これもひとえに、ジョナさんの頑張り
と、この裁判に注目してください
った多くの方々の励ましのおかげ
と思っと思っています。

判決確定後、弁護団は直ちに
京都市との面談を申し入れまし
た。しかし京都市の担当者は「判
決に従った支給は福祉事務所経
由で行うので、会うつもりはな
い」との冷淡な対応でした。の
みならず、判決文に従ったジョ
ナさんへのリフト機能部分の補

11、528円という金額は、
電動車いすの本体やオプション
製品が掲載されるカタログのど
こにも記載がありません。皆さ
まも常識的に考えて、これほど
小さな金額で電動車いすへのリ
フト機能設置など到底不可能で
あることは、おわかりいただけ
る筈です。

中でも、端数の528円部分
は、京都市の巧妙な責任逃れの
ロジックによりでつち上げられ
た数字であることが、既に調査
によって判明しています。それ

にもかわらず京都市は、我々と
の面談を避け、汚れ役を福祉事務
所に押しつけて逃げ回っている
のです。



「聞」そのものと感じます。
とりわけ、本人不在で申請手続
が進んでいくことと、行政が支給
決定を出さない限り何も進まな
いことの2点は深刻です。

前者については、申請に対する
行政の応答が、ジョナさん本人で
はなく業者や家族へのものに偏
っていたという問題です。後者
は、決定が出なければ本人に車い
すが届かないだけでなく車いす
作りに携わった関係者も一切支
払が受けられないという実情で
す。

この二つの問題が合わさるこ
とで、今回の問題が発生したので
す。

詳しくは書けないのがもどか
しいところですが、次の原稿では
是非とも良い報告をみなさまに
できるよう、引き続き力を尽くし
たいと思います。

つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

場面⑩ 突然の担当者交代に、

「多職種連携」を考える

ゴールデンウィーク直前、支援チームの一人が交代すると連絡が入りました。退職でも異動でもなく、「担当者交代」とのことです。この支援チームは、ご本人を中心に医療・心理・就労・福祉等の各関係者が連携・就労しながら支援に取り組んでいます。「本人中心」とはどういうことか、そしてそれをどう実現していくのか、これまで紆余曲折をたどってきました。

自分はすでに組まれていたチームに後から加わったのですが、初めて参加したのは病院の大会議室での会議でした。まるで「白い巨塔」か「首脳会談」のような雰囲気、「えらいところに来てしまった」と冷や汗も

でした。また、アサーション、ナラティブ、オープンダイアログ等、普段なじみのない用語にずいぶん戸惑いました。

利用者さんの面談に同席した際には、目の前で担当者2人の会話が急に始まりました。自分は「何事?!」と驚きましたが、利用者さんは「いつものこと」と冷静でした。リフレクティングといって、繰り広げられる様子を見聞きした上で考えて、感じたことを返すというものでした。

専門学校に通うようになったのは、いろいろな職種の人たちと一緒にやっていたためには学びが必要だと感じたからです。立場や意見の違いを超えて、専門性を発揮できることにつながればと考えました。

支援のことで迷っている時、関わりによって「だけが不安定になる要因ではないので、そんなに深刻にならなくても」と言ってくれたのが、今回交代となった担当の方でした。「地雷かどうかは踏んでみないと分からないので、踏んでしまった

場合、僕なら思いつき踏み抜きますかね」等の独特の持論に、「そんな考え方もあるのか」と圧倒されることが多かったです。常々「ご本人抜き会議はしない」と口にして、それを信条にされていました。

また、「中山さんがどう思ったのか気になりますね」「中山さんが苦しくなったと少しでも感じた時にヘルプを出してください」と、折にふれてチームでの支援・複数で支える必要性の投げかけがありました。支援に行き詰まった時は、誰かに発信してもいいと思えるようになったきっかけです。今回の担当者交代について「しゃあないんちゃう、ドクターが依頼したことやし」という利用者さんの言葉に、多職種連携のあり方を考えました。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）

2+2=詩

「思い出のキリン」

懐かしさに誘われて思い出の公園に足を踏み入れた
何がなくなつたのか。何もなくなつていないの
たしかに変わっているはずなのに
それがわからない風景の中で、
露骨に変化を刻んだキリンの遊具だけは
記憶と変わらないと確信できた

子供の頃、何度もその背に乗り
鼻面を撫で回した懐かしい彼

風雨にさらされた塗装ははげて、

何人もの足を乗せた背中へこみ

何人もの手に撫で回された鼻にはヒビが入っていて

それでも彼は今も昔と変わらぬ位置で、

あるいは誰かを待つようにたたずんでいた

そつと顔を寄せて色の落ちた目と視線を合わせる

彼は何か言った気がして、僕も何かを伝えた気がした

言葉にならない、言葉にできない

会話ではない邂逅を経て、僕はその場をあとにする

次に来たときにも会えるだろうか

寂しさのような気持ちを覚え振り返った視線の先、

キリンは高々と首を掲げ変わらず遠くを見つめていた



「あなたに」

心底幸せそうに笑っている貴方

世界の無慈悲を知つても笑つていられるだろうか

世界の理不尽を知つても無邪気でいられるだろうか

僕には無理だから 僕には無理だったから

どうか貴方には笑つていてほしい

どうか貴方は無邪気なままできてほしい

名前も知らないどこかの幼い貴方

「広がって」

ひとつ興味の対象を見つけるたびに

自分が広がっていく

ひとつ何かを始めるごとに

自分の何かを広げていく

ひとつ何かを手に入れるごとに

自分のものが増えて広がる

広がって広げて

増えて広げて

広がって広げて

そしてそのまま放り出す

いつかは分らないがいつか必ず

広げるだけ広げたままほとんど片付けもできないまま

広げた世界は僕とともに

放り出されて腐ってなくなる



□5 休止を乗り越え再スタートと与謝・丹後の2市2町の運動体は北障連しかない！！

① 今年で50年目を迎える北障連は地域づくり運動で進んできました。

今年で50年目を迎える北障連運動は、学校づくりを支え担ってきた先輩たち手弁当の献身的な努力に支えられて進んできました。

北障連の事務局に入って進めてこられた人たちは、今田謙四郎氏、佐々木稔氏、石田卓三氏、広瀬公二氏、平林博樹氏、尾上豊氏等の御名前が挙がります。※紙面の都合で北障連に尽力して頂いた多くの方々のお名前は割愛いたします。御容赦ください。

北障連の活動は教育、事業所実践を終えた夜や休日でしたので順風満帆に進んできたのではなく、まさに山あり谷ありだったと思います。



学校作りとよさのうみ福祉会の発展に関わって来られた
広瀬公二さんの話 : 2014
年再結成総会の講演

② 北障連は、約3年にわたる“休止”を乗り越え、2014年8年前に再スタートしました。

取り分け危機的な状況になったのは、平林茂氏が事務局長をしておられた時でした。退職を目前に新年度からの活動の意気込みを話されていた矢先に急逝されました。

その為、事務局を中心に担う人が不明確となり北障連灯が消えかかっていました。総会や要望書の活動が全く停止する中で、「何とかしなくては・・・」と思う関係者が、

与謝・丹後の3福祉会に呼びかけ、北障連の今後の活動をどうするのかという苦しい論議を約半年間重ねました。それぞれの福祉会の施設長さんが参加していただきましたが、それはまさに産みの苦しみでした。しかし「1市1町（平成の合併で2市2町）を跨ぐ運動体は北障連しかない」という結論に到達しました。

また、同時に創世時のように全ての北障連の活動をボランティア活動のみに頼るのではなく、事務局員さんの交通費や勤務補償をできるよう加盟の会費の増額、学習会参加費等について各福祉会で北障連への支援をして頂けるように前進したきました。

③ 運動の継続が命！！次の世代にバトンを手渡し！

いざ活動を始めて見ると空

白の期間が3年あると言うことは、「北障連」について全く知らない事業所職員・学校関係者・市町の首長や福祉行政職員の方々もおられ、認知していただくところからの再結成でした。

運動は途切れると立ち上げに膨大なエネルギーを使うと言うことを思い知らされました。与謝野町の前福祉課長さんからは「活動を継続することとは非常に重要です。頑張ってください。」との激励が心に染みしました。次の世代に運動のバトンをしつかりと渡すまでガンバル所存です。

次回から再結成後の総会の内容（北障連の目的・具体的な取組等・学習や交流）について報告します。

365歩のマーチ



14 友だちに大興奮

私は小さい頃からカメラが大好きです。昔からすぎて好きになっただきっかけも思い出せないのですが、小学生の頃から代がわりをしながらも一貫してカメラを飼いつけています。一時は、今でこそ保健所の許可のいるワニカメラ(よく池に放流されて大きくなってしまう)になる、あのカメラです(も問題になり、エサになるメダカをベツトショップに買いに行っていた思い出があります。ミヒヤエルエンデの『はてしない物語』や『モモ』に出てくるカメラも大好き。賢者のイメーシで、のんびりとした雰囲気に安心します。

今飼っているのは「オオアタマヒメニオイガメ」というアメリカ

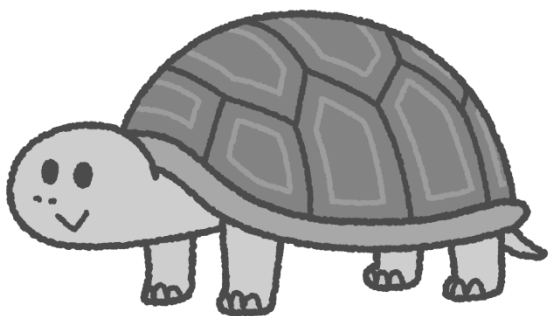
のカメラで、名前はひこじろう(命名後、メスということが判明)。

5センチほどの赤ちゃんの頃に出会い、かれこれ8年の付き合いになります。ゆいちくんが生まれてからは、カメラの持っている菌を口に入れてはいけないうし、水槽のなかにいろいろほいほい入れてもひこじろうも困るし…

ということでも2年あまり私の部屋の片隅でひっそりと暮らしていました。2歳を前にして、そろそろ大丈夫かな…と思いい水槽をゆいちくんでもすべに行ける場所に移動しました。ゆいちくんが初めてひこじろうを見た時には「ひこじろう」と言います。何となく「ひこじろう」と言います。父以外の人間、それも絶え間なくエサを振りまいては「ひこじろう」

ません。部屋から出てくるとは「あかー…っつー(見てー)」「と呼んでは水槽のカメラを母に見せては満足そうにしています。「お友達ならっつて、近づいてみ」と言いますがそれは「ひこじろう」。その後「ごはんを食べ終わっては「っちー!」(あっちあっちー)」「お風呂から出ては「っちー!」と言いつつカメラのいる部屋に父を連れていきます。一人では行けず、近づくと「ひこじろう」そんなに怖ければ見なければいいのに…と思うのですが興味津々でした。

子どもは慣れるのが早いもので、次の日には水槽の上からじーっとのぞき込めるようになり、エサやりにも挑戦しました。一度やるたびに何度もやりたがるゆいちくん。「ひこじろう」ってエサをやりたい!というのを伝えてくれ、何度もエサをやりました。ひこじろうも久しく見る父以外の人間、それも絶え間なくエサを振りまいては「ひこじろう」



と走り回る存在にびっくりしていたことでもしょつ。急にびっくりさせてこめんね。「いやだ」と泣いている時にも「カメラさんとひこじろうに行へっ」と聞くと「うん」と機械的になってくれています。ひこじろうも、そんなゆいちくとこれからながよへっつてくたせよ。

安藤 中郎(あかひこじろうの園)

知っ得情報

障害基礎年金等と児童扶養手当との併給調整の見直し

松本 美津男

障害基礎年金等の額が児童扶養手当の額を上回る場合、児童扶養手当を受給できませんでしたが今年3月分以降は、児童扶養手当の額が障害年金の子の加算部分の額を上回る場合、その差額を児童扶養手当として受給できるようになりました。

※「障害基礎年金等」とは国民年金法に基づく障害基礎年金、労働者災害補償保険法による障害補償年金など。障害厚生年金は含まれない。

〈申請方法〉

既に児童扶養手当受給資格認定を受けている人（全部支給停止中も含む）は、原則、申請は不要。

それ以外の人は、各市町村（京都市は各区役所・支所子どもはぐくみ室、京北の人は京北出張所）での申請が必要。

〈経過措置〉

障害基礎年金等受給のため児童扶養手当を受給できなかった人のうち、3月1日に支給要件を満たしていた人は、6月30日までに申請すれば、3月分の手当から受給できる。

あなたもぜひ 仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ（資格不要）募集中
介護職員（資格要）募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります（随時）



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

年会費 高木信義

寄付 井上吉郎

(敬称略・2021/5/10)

力を合わせて生きる (その3)

バスケット選手の八村兄弟に背中を押されて

金順喜 (キン ジュンキ)

バスケット選手の八村兄弟に背中を押されて、私が直面している複合差別について書きたいと思います。私は脳性麻痺で車いすの生活をしています。

■尋常性白斑

車いすの私が介助者と外出すると、すれ違う人々の目線が私に突き刺さってきます。無知な女子たちは「きしょい」などと、私にだけささやくのです。矢継ぎ早に言われるのでそこではいちいち反応しません。でも心はいつも傷ついています。私には尋常性白斑という皮膚疾患があります。皮膚の色素が白く抜けていく後天性の病です。思春期には毎日死にたいと思っていました。脳性麻痺でADLが出来ないことや歩けないことより、今でも悲しいことです。

■女性障害

親からの解放を求めて悶々としていた頃、自立生活運動 JCIL 巡り逢った。社会の理不尽な差別には、正面から向き合う事を先人から教わりました。でも女性特有の差別に関しては、口をつぐんできました。例えばタクシー乗車の時、介助の仕方がおぼつかない運転手さんの手が胸に触れるなどは介助だから仕方がない。わざとじゃない。と言いつつ聞かせ自分の感情を押し殺していました。ああ、私は女性として扱われていない、というような事例はたくさんありました。

■国籍差別

私には障害基礎年金がありません。1959年「国民皆(かい)年金(ねんきん)」をスローガンに国民年金法が施行されました。しかし、国籍条項によって米国籍以外の外国人は制度から排除されていました。1981年の難民条約批准をきっかけに国籍条項が削除されましたが、その際に経過措置を設けなかったため、1982年1月1日に、既に20歳を超えていた重度の外国籍障害者には、未だに障害基礎年金が支給されていません。いったん、そこで切り捨てられてしまった人は、その後日本国籍を取得しても支給されません。未加入や未納ではなく、制度的に排除され、制度によって無年金のまま放置されています。

国境を越えないかぎり、自分の国籍について意識をすることはあまりないかもしれませんが。しかし、日本で生活している外国籍の人たちにとっては、国籍は日常的に意識させられるものです。国籍による差別が制度化され、生活のさまざまな場面で「外国人」であることを認識させられる現実があります。

たとえば、日本で生まれた韓国・朝鮮人は「帰化」しなければ日本国籍が取得できません。一方で、アメリカで生まれた人はアメリカ国籍を取得できる。国籍法が血統主義なのか、出生地主義なのかによって、このような違いが生じています。そして、その違いが一生を通じて影響しつづけることとなります。

外国人は、権利の面では不平等なあつかいを受け、義務の面では日本人と「平等」に負わされています。障害者福祉の面でも国籍差別が残っています。

「当事者が訴えないと何にも変わらない」。その思いで、私は在日無年金障害者の立場から裁判支援や行政交渉などの活動をしてきました。

「日本人でも外国人でも障害をもって生活する厳しさには変わりはありません。私たちは日本で生まれ育ち、学び、日本で死んでいくのです。人としての尊厳は同じはずです。」